

6

歯科衛生士^{*1}高阪 利美^{*2}

1. 過去20年間の歯科衛生士人数の推移

平成28年（2017年）末現在の就業歯科衛生士は、123,831人であり20年前の平成8年（1996年）の56,466人と比して2倍以上に増加しており、毎年増加は続いている。

また歯科衛生士の毎年実施される国家試験の合格者数についても、7,000名を超えるのも近いと思われる勢いである。しかし、毎年その人数で歯科衛生士が誕生し、歯科衛生士就業者数は、12万人にも達しているにもかかわらず、医療現場では慢性的な歯科衛生士不足が続いている。

歯科衛生士の就業場所は、「診療所」が112,211人（90.6%）と最も多い。次いで「病院」6,259人（5.1%）で、臨床に勤務しているものが多く、20年前の平成8年（2006年）では、「診療所」が50,403人（89.3%）、「病院」3,288人（5.8%）就業者数は倍に増えているが、割合では20年前とほぼ変わらない。また年齢階級別では、「25～29歳」が17,807人（14.4%）、「30～34歳」が17,865人（14.4%）、「35～39歳」が16,673人（13.5%）、「40～44歳」が18,371人（14.8%）と「25～29歳」で最も多かったが、現在では出産・子育て世代の「35～39歳」でやや少ない傾向で、各年齢層同等の割合となってきた。変化してきているのは、50歳代以降の年齢であり、10年前の平成18年（2006年）50歳以降では一つにまとめられて、7,136人（8.2%）であったが、現在では「50～54歳」11,400人（9.2%）、「55～59歳」6,971人（5.6%）、「60～64歳」2,900人（2.3%）「65歳以上」1,581人（1.3%）と、50歳以降においても細かく分けられ、10年前と比較して50歳以降で、22,852人

（18.4%）と3倍以上の就業者が増えていることがわかる。この背景には、高齢化社会の進展に伴い、医療機関を受診する患者が増加していること。さらに、介護や在宅などで歯科医療サービスを受けたい患者の増加傾向にあることなどから、在宅医療や高齢者施設などで、歯科衛生士の資格を生かした就業者がいることを表しているのではないかと考えられる。

また、歯科診療所での医療サービスにおいても歯科衛生士に求められている業務内容は、「歯・口の健康志向」に向かっていると考えている。多くの国民は、「歯・口の治療」を中心とした歯科医療から、自ら、からだの健康を維持・増進するために、歯・口の健康も考えるようになってきた。その現れとして、歯科衛生士の業務である「歯科衛生実施指導料1」は平成27年度歯科診療行為別統計の保険点数が上位7位に入っている（表1）。平成28年度では、上位6位となった。その他にも、歯科衛生士の関わる行為が6項目もある。特に歯周基本治療やスケーリング・ルートプレーニングなど歯科衛生士を明記した行為ではないが、多くの歯科医療機関では歯科衛生士が歯周治療の診療補助として行っている業務である。教育の現場でも多くの時間を使いスケーリング操作の教育指導を行っている。このように、保険点数の読み取りにおいても歯科衛生士の業務内容に変化をもたらし、就業を多く求められているのではないと思われる。歯科衛生士教育者として、今後活躍できるよい人材を送り出すことと、離職しないよう支援することが早急に求められているものと考えている。

2. 教育機関の数

平成29年度一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会加盟の歯科衛生士養成校163校を対象に、平成29年4月11日～4月28日の期間に調査したもの

^{*1} Dental Hygienist

^{*2} Toshimi Kosaka 日本歯科衛生教育学会理事長、愛知学院大学短期大学部歯科衛生学科

を紹介する。調査対象とした、163校の養成校すべてから回答を得ており、100%の回収率である。

163校中4年制大学は11校、短期大学は14校、専門学校は140校であった（学校数の合計は2校の移行中の養成校があるため、165校となっている）。専門学校4校が入学生の募集を行わず、そのうち2校は大学・短期大学に移行したため、入学定員数の学校数は161校で、また昼間部と夜間部の2部制の養成校は12校あったが、昼・夜間を合計して集計したものである。

①入学定員と入学者の推移

全国の入学定員数は8,835名（127名増）、入学者数は7,863名（41名増）と共に過去最多となった（表2）。全国の入学定員に対する入学者数（入学定員充足率）は、平成25年度では97.1%にまで達したが、平成26年度から再び減少傾向となり、平成29年度は89.0%まで低下した。この減少傾向は、入学者に対する入学定員の著しい増加によるものと思われる（表3、図1）。

平成25年以降、入学者数は7,800名程度のほぼ

横ばいとなっているが、本調査が100%となった平成22年度と比較しても、約1,200名の増加となっている。

②入学定員と入学志願者の推移

全国の入学定員に対する志願者倍率は、平成25年度では1.32倍となったが、平成26年度からはやや減少傾向となり、平成29年度は1.21倍と昨年と同じであった。最も高い養成校は7.47倍であった。また、志願者が定員に満たない養成校も37.9%あった（表3）。学校種別で志願者倍率では大学、入学定員充足率では短期大学が高かった（表4）。

③就業者数・求人件数・求人倍率の状況

平成28年度は、卒業者数6,955名、就職者数6,487名で就職率は93.3%であった。求人件数は84,811件で求人人数は133,189名、就職者数に対する求人人数は20.5倍に増加し、調査開始以降、最も高かった（図2）。また、地区別に求人倍率と就職率を比較すると求人倍率が最も高かったのは、

表1 平成27年度高点数の診療行為 1位～15位（6月分）

順位	診療行為	点	回数	点数
1	歯科疾患管理料	110	12,738,911	1,401,280,210
2	歯科初診料	234	5,940,690	1,390,121,460
3	歯科再診料	45	22,984,825	1,034,317,125
4	歯周病検査、歯周基本検査20歯以上 1回目	200	4,077,340	815,468,000
5	う蝕歯即時充填形成	126	6,096,421	768,149,046
6	充填1 複雑なもの	156	3,888,810	598,876,740
7	歯科衛生士実施指導1	80	7,408,554	592,684,320
8	歯周基本治療スケーリング同時・3分の1顎超 1回目加算	38	14,741,373	560,172,174
9	レジン前装金属冠	1174	450,219	528,557,106
10	金属歯冠修復 全部金属冠	454	979,868	444,860,072
11	歯周基本治療 スケーリング 3分の1顎につき 1回目	66	6,031,593	398,085,138
12	機械的歯面清掃処置	60	6,375,304	382,518,240
13	歯周基本治療 スケーリング・ルートプレーニング 前歯	60	5,795,750	347,745,000
14	金属歯冠修復 全部金属冠 金銀パラジウム合金 大白歯材料	450	611,150	275,017,500
15	充填1 単純なもの	102	2,565,251	261,655,602

平成27年 社会医療診療行為別統計 平成27年6月審査分より

関東/甲信越25.2倍、最も低い九州/沖縄地区でも13.1倍であった。

就職率が高かったのは、東北96.3%と東海96.2%で、最も低かったのは九州/沖縄89.0%であった。

http://www.kokuhoken.or.jp/zen-eiky/publicity/file/report_h29.pdf

業者数も同様に増加している。また、活動の場においては、歯科診療所や病院が中心であるが、生涯を通じて歯、口の健康づくりを支援するよう、地域への広がりがあり、健康志向の高まりとともに、歯科衛生士の活動に期待が寄せられていることから、専門性の高い歯科衛生士教育の充実が望まれている。

④今後の期待

歯科衛生士養成校は、年々増加傾向にあり、就

表2 卒業、就職、求人情報および入学定員、志願者、入学者数について

平成28年度				平成29年度			163校/163校中(回答率 100%)
卒業 者数	就 職 者 数	求 人 件 数	求 人 人 数	入 学 定 員	志 願 者 数	入 学 者 数	
6,955	6,487	84,811	133,189	8,835	10,662	7,863	
▲ 67	64	10,439	12,167	127	114	41	(前年比)
就職者に対する求人情数倍率				13.1			
就職者に対する求人人数倍率				20.5			
志願者倍率=志願者数/入学定員				1.21			最低 0.13
							最高 7.47
定員充足率=入学者数/入学定員×100				89.0%			最低 12.5%
							最高 127.5%
志願者数が定員に満たない学校				37.9%			
入学者が定員に満たない学校				55.9%			

表3 入学定員充足率と志願者倍率等の年次推移

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
入学定員充足率	79.4%	85.2%	91.2%	93.2%	97.1%	93.6%	91.8%	89.8%	89.0%
入学者が定員に満たない養成校の割合(%)	60.1%	56.8%	47.0%	45.7%	35.8%	46.5%	47.1%	48.7%	55.9%
志願者倍率	1.01	1.13	1.21	1.21	1.32	1.29	1.26	1.21	1.21
志願者が定員に満たない養成校の割合(%)	50.0%	43.2%	35.8%	35.1%	25.2%	29.0%	32.5%	36.1%	37.9%

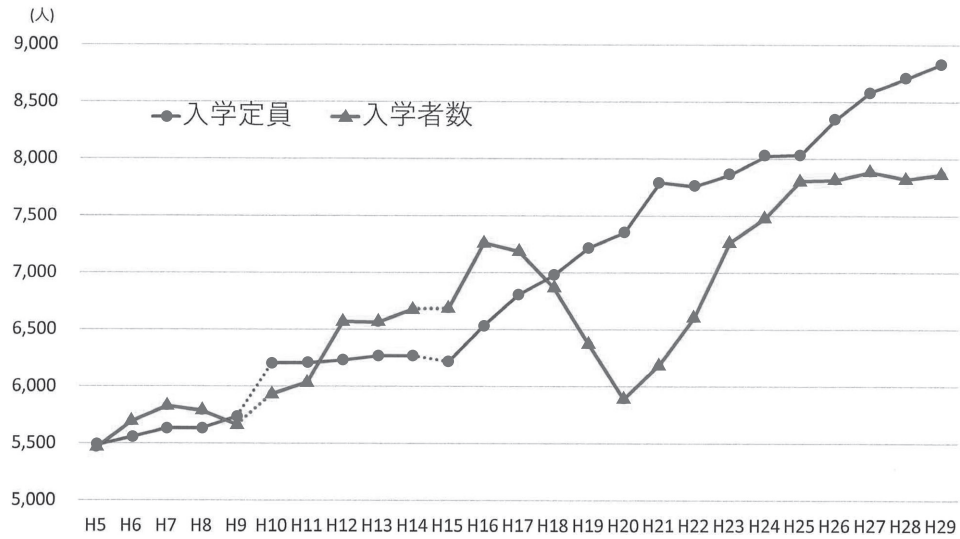


図 1 歯科衛生士養成所の入学定員と入学者数の推移

表 4 学校種別の志願者倍率と入学定員充足率

平成29年度	志願倍率（倍）	入学定員充足率(%)
専門学校	1.07	87.9
短期大学	1.59	96.5
大 学	2.77	89.7

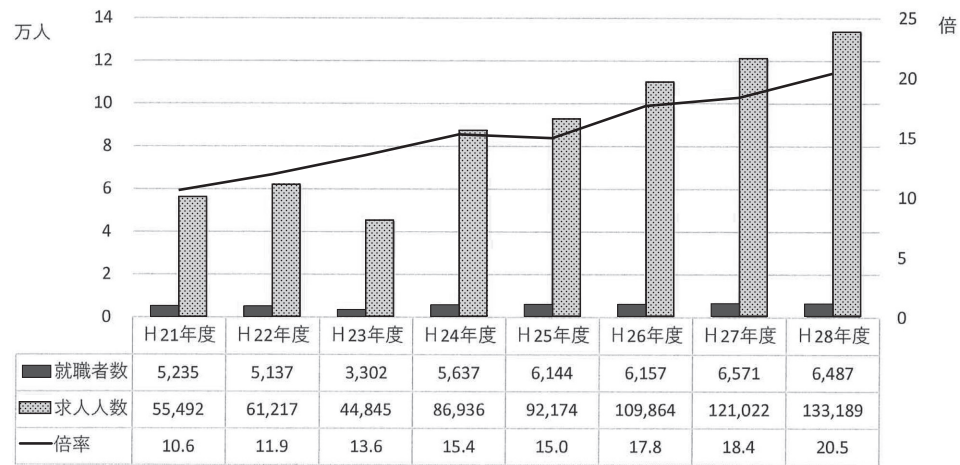


図 2 就職者数・求人人数・求人倍率の年次推移